

# 人口

## 基本構想

### 第7章 目標フレーム（人口、土地利用）

#### 第1節 人口

江南市の人口は、平成18年4月1日現在約101,000人となっていますが、このままの条件が続くと、平成26年をピークに、緩やかな減少局面に入ることが予想されます。

この10年間で、今後、先に掲げた将来像を実現するために、地域経営・行政経営のそれぞれの視点から、各分野で戦略的な取り組みを展開することにより、平成26年のピーク人口を維持することを目標とします。

平成29年目標人口 102,000人

## 基本計画

### 第1章 目標フレーム（人口・財政・土地利用）

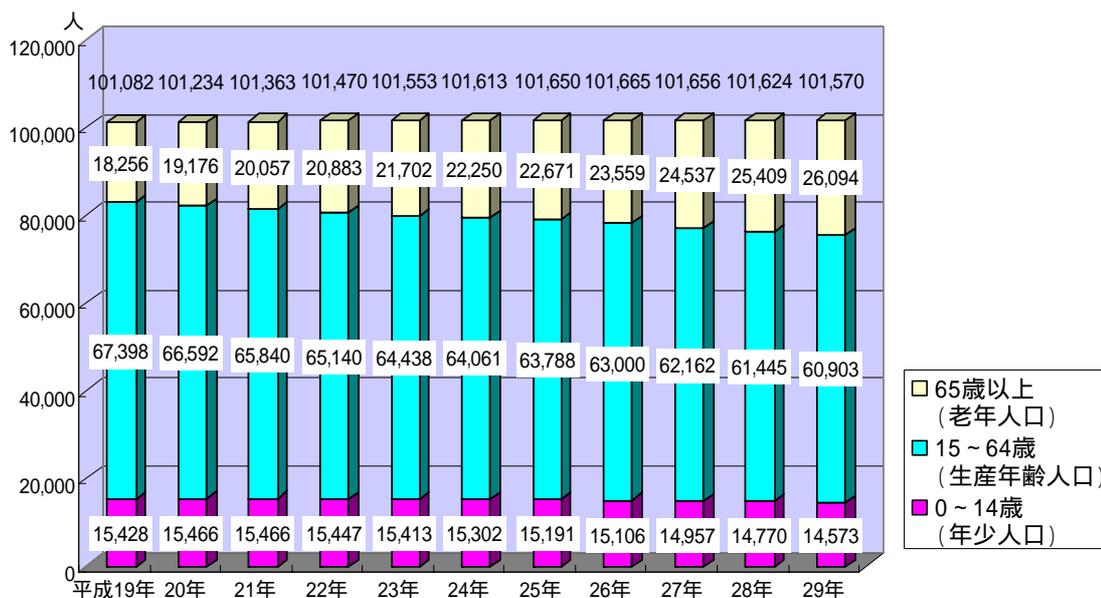
#### 第1節 人口

人口フレームの総人口は、住民基本台帳と外国人登録データを踏まえて、人口構造は、国勢調査データを踏まえて見通したものです。

##### 総人口

本市の総人口は、計画期間中、年平均 0.1%程度と緩やかな人口増加を続け、平成 26 年（2014 年）をピークに、約 101,000 人を維持しながら、緩やかな人口減少過程に入るものと見込まれます。

表1 総人口・年齢3区分別人口の見通し



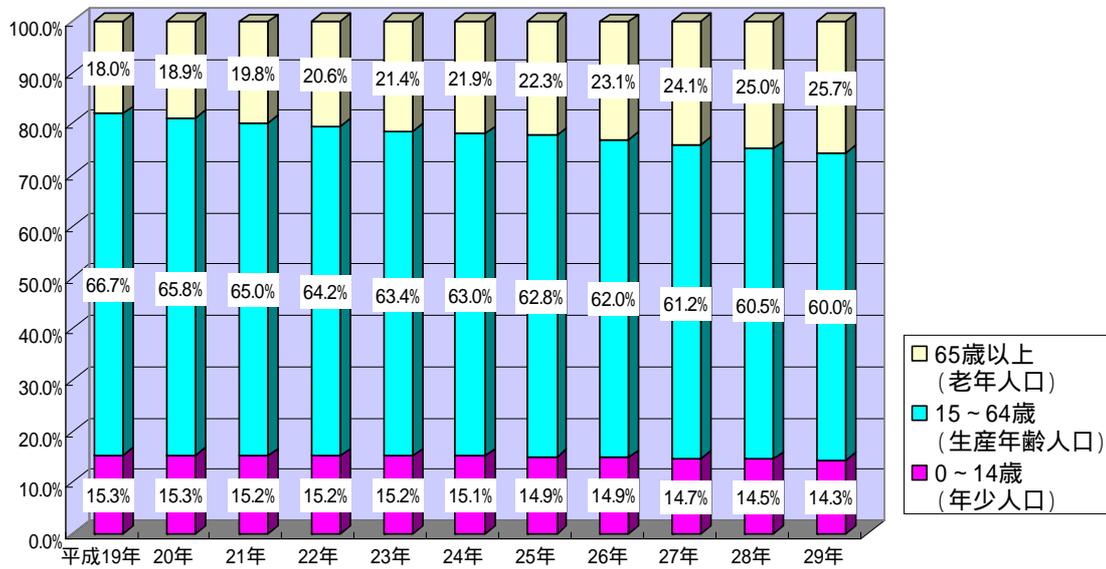
##### 人口構造

人口の年齢構造を見ると、今後、さらに少子・高齢化が進み、出生率の低下や平均寿命の伸びから、平成 22 年（2010 年）の老年人口（65 歳以上）の割合は、20.6% へと高まり、実数も、約 21,000 人に増加するものと見込まれます。さらに、平成 29 年（2017 年）の老年人口の割合は、25.7%へと高まり、実数も約 26,000 人に増加するものと見込まれ、4 人に 1 人が高齢者になることが想定されます。

一方、年少人口（0～14 歳）や生産年齢人口（15～64 歳）は、平成 22 年（2010 年）には、それぞれ約 15,000 人と約 65,000 人となり、若干減少するものと見込ま

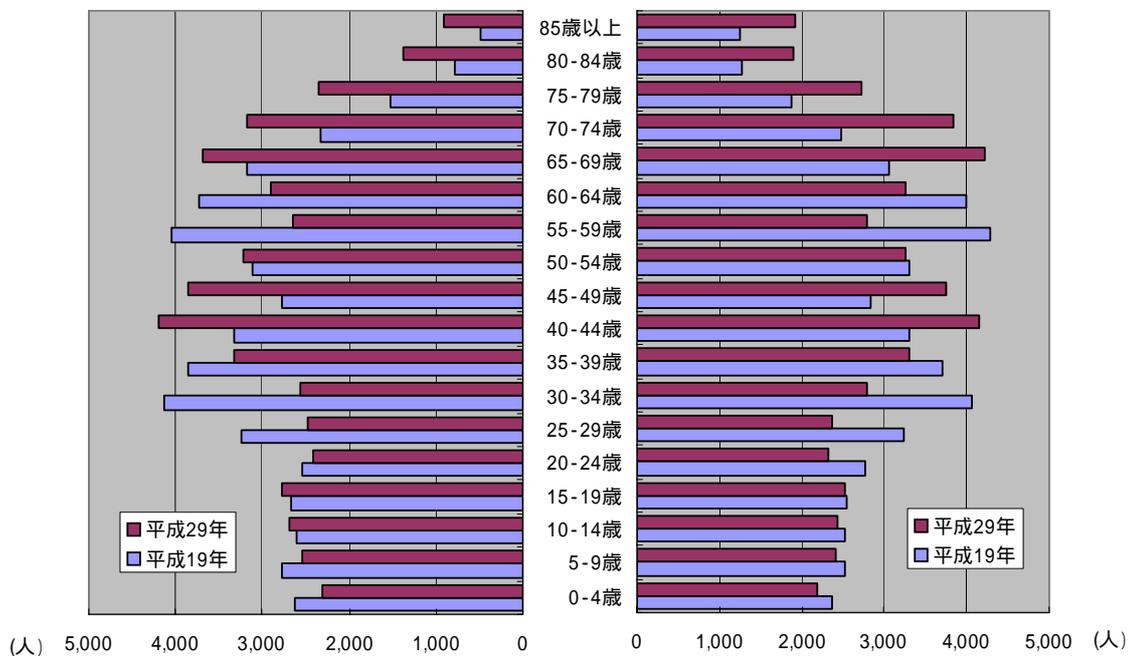
れます。また、割合についても 15.2%と 64.2%と低下することが想定されます。さらに平成 29 年（2017 年）には、それぞれ、約 15,000 人と約 61,000 人となり、その割合についても、それぞれ、14.3%、60.0%と低下することが想定されます。

表2 人口構造の見通し



将来人口推計(男性)

将来人口推計(女性)



#### 将来目標人口

人口の見通しを踏まえたうえで、計画期間中に子育て環境の充実、安心安全度の向上、住環境の充実等の各種施策の実施効果により、本市の将来目標人口を以下のとおりとします。

	平成 22 年	平成 25 年	平成 29 年
総人口	101,700 人	101,900 人	102,000 人
年少人口 (0~14 歳)	15,473 人	15,229 人	14,653 人
生産年齢人口 (15~64 歳)	65,297 人	63,945 人	61,156 人
老年人口 (65 歳~)	20,930 人	22,726 人	26,191 人

# 財政

## 基本計画

### 第1章 目標フレーム（人口・財政・土地利用）

#### 第2節 財政

平成19年度の当初予算を基礎として、平成29年度までの財政状況を一般会計ベースで見通したものです。

##### 歳入

市税は、今後予定される税制改正や人口推計などを加味して推計しました。地方交付税は、市税の動向や過去の実績を勘案して推計しました。その他の歳入については、過去の実績の推移を勘案して推計しました。

##### 歳出

人件費は、今後の職員数を見込んで推計しました。投資的経費は、市のプロジェクトに基づき推計しました。その他の歳出については、過去の実績を基本とし、人口推計などを加味して推計しました。

#### 財政計画

(単位:百万円)

年 度	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
歳 入 総 額	24,367	24,223	24,230	23,905	23,351	23,346	23,432	23,271	23,304	23,291
自主財源	市 税	12,858	12,620	12,661	12,698	12,458	12,521	12,584	12,361	12,488
	そ の 他	2,884	2,981	2,770	2,771	2,575	2,574	2,576	2,575	2,575
依存財源	市 債	1,596	1,670	1,737	1,463	1,367	1,271	1,294	1,320	1,348
	地方交付税	1,823	1,658	1,785	1,785	1,785	1,868	1,785	1,714	1,785
	そ の 他	5,206	5,294	5,277	5,188	5,166	5,112	5,193	5,301	5,165
歳 出 総 額	24,367	24,223	24,230	23,905	23,351	23,346	23,432	23,271	23,304	23,291
義務的経費	人 件 費	6,071	6,011	5,665	5,875	5,475	5,379	5,293	5,228	4,983
	扶 助 費	3,836	3,836	3,834	3,830	3,822	3,813	3,808	3,801	3,783
	公 債 費	2,289	2,328	2,297	2,265	2,235	2,192	2,197	1,954	1,960
投資的経費	2,279	2,233	2,312	2,426	2,289	2,235	2,305	2,269	2,282	2,372
その他経費	9,892	9,815	10,122	9,509	9,530	9,727	9,829	10,019	10,047	10,216

## 土地利用

### 基本構想

## 第7章 目標フレーム（人口、土地利用）

### 第2節 土地利用

木曽川に沿って広がる本市の地形は、全般に平坦で、木曽川の恵みを受けた肥沃な扇状地が広がっています。この貴重な資源である土地は、市民生活や産業活動の基盤であり、その利用にあたっては長期的な視点が必要です。

この考え方にもとづき、本市の将来像である「豊かで暮らしやすい生活都市」を実現するため、恵まれた自然・大都市近郊といった地域の特性、周辺都市との連携、社会経済情勢を踏まえた計画的な土地利用を進めることを目標とします。

## 基本計画

### 第1章 目標フレーム（人口・財政・土地利用）

#### 第3節 土地利用

本市は木曾川左岸のほぼ平坦な平野部にあり、名鉄犬山線の江南駅・布袋駅を中心として市街地が形成されてきました。しかしながら、大都市・名古屋に近接していることからベッドタウンとして急速に宅地化が進んだため、道路などの都市基盤の整備が遅れるとともに、都市としてのまとまりが乏しく、農地と宅地の混在などが生じてしまいました。

こうした状況を踏まえ、「豊かで暮らしやすい生活都市」にふさわしい健全な都市環境の形成と都市機能の集積を実現するため、本市の骨格となり、将来の発展軸となる道路軸を設定するとともに、市域を次の5つのゾーンに区分し、各ゾーンの調和がとれた計画的な土地利用を進めます。

ただし、土地利用の方針は、都市計画マスタープランの策定後、その内容を反映させるため、中期（平成23年度～25年度）基本計画において見直しを行うものとします。

#### にぎわいのゾーン

市民生活の中心となるゾーンとして、都市機能の集積を高めるとともに、本市のシンボルとなる景観とにぎわいを形成します。

#### くらしのゾーン

安全で安心して暮らせる居住環境を形成するため、市街地整備を進めるとともに、うるおいのある快適な空間づくりを進めます。

#### のびゆくゾーン

市内における就業の場となる活力ある工業ゾーンとして、周辺環境に配慮しつつ、今後も地域経済に貢献していきます。

#### ゆとりのゾーン

都市空間にゆとりをもたらすゾーンとして、市街化を抑制し、農地の多面的な機能を維持・活用します。

#### うるおいのゾーン

木曾川沿いの恵まれた水辺や緑地など身近な自然を保全し、憩いとうるおいを提供するとともに、レクリエーションの場として活用します。

#### 道路軸（発展軸）

市街地の骨格を形成し、周辺都市との交流を活性化する発展軸となるとともに、市内各地区との連携を強化し、一体的なまちづくりを促進する道路として次の路線を設定します。

東西軸：北尾張中央道（国道155号）・一宮犬山線・県道浅井犬山線  
南北軸：名古屋江南線・江南岩倉線・愛岐南北線・愛岐大橋線

# 土地利用構想図

